

基本計画書

基本計画書			
事項	記	入	欄
備考			
計画の区分	研究科の専攻の設置		
フリガナ設置者	コリツガクカクシヨウ コウチガク 国立大学法人 高知大学		
フリガナ大学の名称	コウチガクカクシヨウ 高知大学大学院 (Graduate School, Kochi University)		
大学本部の位置	高知県高知市曙町二丁目5番1号		
大学の目的	<p>高知大学は、四国山地から南海トラフに至るまでの地球環境を眼下に収め、「地域から世界へ、世界から地域へ」を標語に、現場主義の精神に立脚し、地域との協働を基盤とした、人と環境が調和のとれた安全・安心で持続可能な社会の構築を志向する総合大学として教育研究活動を展開する。教育では、総合的教養教育を基盤とし、「地域協働」による教育の深化を通して課題解決能力のある専門職業人を養成する。研究では、黒潮圏にある豊かな地域特性を生かした多様な学術研究を展開する。もって、世界と地域を往還する教育・研究の成果を発信し、地域社会・国際社会の発展に寄与する。</p> <p>そのため、以下の基本目標を掲げる。</p> <p>1. 教育 総合的教養教育の実現により、各学部・学科等のディプロマ・ポリシーに従いそれぞれの専門性を身に付けるとともに、分野を横断した幅広い知識・考え方が学生自身の内部で統合され、世の中に働きかける汎用的な能力にできる人材の育成を目標とする。</p> <p>また高知県にある唯一の国立大学であることを意識し、とりわけ、地域、海洋、防災、医療に関する学際的な教育を本学の特色と位置づけ、グローバルに通用する知識・考え方を教授するとともに地域での実践活動を通じ地域の発展に貢献できる人材育成を目指した「地域協働」による教育を実施する。</p> <p>2. 研究 地域の活性化を目指した人間社会、海洋、環境、生命を研究の中心におくとともに、大規模災害に備える防災科学を研究目標に掲げる。</p> <p>また、黒潮圏諸国をはじめとした学内外の研究者間交流を一層促進し、異分野融合研究を推進する。</p> <p>3. 地域連携とグローバル化 地域課題を組織的かつ機動的に解決するために、域学連携教育研究体制を強化することで、人材育成、科学の発展、技術開発及び産業の活性化に資する。これにより、地域に欠くことのできない大学として、地域の振興と地域社会の健全な維持・発展に貢献する。</p> <p>また、アジア・大洋州等の開発途上国とのつながりを重視し、高知県における地域資源の特徴を生かした国際協力を推進するとともに、それらを教育・研究の場として活用し、実践的で国際的な教育研究による国際貢献を図る。</p> <p>もって、地域で得られた成果を世界に発信すると同時に、世界の動きを地域に反映させる「グローバル教育・研究」を展開することをグローバル化の基盤に据える。</p>		
新設学部等の目的	<p>常に高知県の学校教育の現場を念頭に置き、学校教育に関わる理論と実践の融合によって、学校教育が直面する諸課題の構造的・総合的な理解に立って学校教育運営をマネジメントし、実践できる中核的中堅教員と、授業力の向上や学級経営等の充実を目指して組織的な授業改善をリードできる中核教員、また、特別支援教育に関する指導・支援の充実を図り、組織的な体制を構築することのできる中核教員を養成することにある。</p>		

新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	教職大学院
		年	人	年次人	人		年 月 第 年次		
	総合人間自然科学研究科教職実践高度化専攻 [Programs for Advanced Professional Development in Teacher Education (Professional Degree Course), Graduate School of Integrated Arts and Sciences]	2	15	-	30	教職修士(専門職)	平成30年4月 第1年次	高知県高知市曙町二丁目5番1号	
	計		15	-	30				
同一設置者内における変更状況(定員の移行, 名称の変更等)		(改組前) 総合人間自然科学研究科(修士課程) 教育学専攻		入学定員 30		(改組後) 総合人間自然科学研究科(修士課程) 教育学専攻(専門職学位課程) 教職実践高度化専攻		入学定員 12 15	
		計		30		計		27	
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数			
		講義	演習	実験・実習	計				
	総合人間自然科学研究科教職実践高度化専攻	41科目	17科目	15科目	73科目	46単位			
教員	学部等の名称	専任教員等						兼任教員等	
		教授	准教授	講師	助教	計	助手		
新設分	総合人間自然科学研究科教職実践高度化専攻	8人 (8)	5人 (5)	3人 (3)	0人 (0)	16人 (16)	0人 (0)	5人 (5)	
	計	8 (8)	5 (5)	3 (3)	0 (0)	16 (16)	0 (0)	4 (4)	
既設	総合人間自然科学研究科人文社会科学専攻	37 (37)	25 (25)	12 (12)	0 (0)	74 (74)	0 (0)	0 (0)	
	総合人間自然科学研究科教育学専攻	28 (28)	17 (17)	20 (20)	0 (0)	65 (65)	0 (0)	4 (4)	
	総合人間自然科学研究科理学専攻	44 (44)	29 (29)	11 (11)	16 (16)	100 (100)	0 (0)	6 (6)	
	総合人間自然科学研究科医科学専攻	44 (44)	18 (18)	12 (12)	11 (12)	85 (86)	0 (0)	0 (0)	
	総合人間自然科学研究科看護学専攻	7 (7)	3 (3)	9 (9)	5 (5)	24 (24)	0 (0)	0 (0)	
	総合人間自然科学研究科農学専攻	36 (36)	30 (30)	7 (7)	2 (2)	75 (75)	0 (0)	5 (5)	
	総合人間自然科学研究科応用自然科学専攻	29 (29)	7 (7)	2 (2)	0 (0)	38 (38)	0 (0)	4 (4)	
	総合人間自然科学研究科医学専攻	47 (47)	36 (34)	37 (37)	66 (66)	186 (184)	0 (0)	0 (0)	
	総合人間自然科学研究科黒潮圏総合科学専攻	19 (19)	14 (14)	4 (4)	2 (2)	39 (39)	0 (0)	2 (2)	
	計	291 (291)	179 (177)	114 (114)	102 (103)	686 (685)	0 (0)	21 (21)	
合計	299 (299)	184 (182)	117 (117)	102 (103)	702 (701)	0 (0)	25 (25)		

教員以外の職員の概要	職 種		専 任	兼 任	計				
	事 務 職 員		260 人 (260)	296 人 (296)	556 人 (556)				
	技 術 職 員		65 (65)	143 (143)	208 (208)				
	図 書 館 専 門 職 員		14 (14)	12 (12)	26 (26)				
	そ の 他 の 職 員		18 (18)	38 (38)	56 (56)				
	計		357 (357)	489 (489)	846 (846)				
校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計			大学全体	
	校 舎 敷 地	451,584㎡	0㎡	0㎡	451,584㎡				
	運 動 場 用 地	65,901㎡	0㎡	0㎡	65,901㎡				
	小 計	517,485㎡	0㎡	0㎡	517,485㎡				
	そ の 他	1,622,418㎡	0㎡	0㎡	1,622,418㎡				
	合 計	2,139,903㎡	0㎡	0㎡	2,139,903㎡				
校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計			大学全体	
		107,863㎡ (107,863㎡)	0㎡ (0㎡)	0㎡ (0㎡)	107,863㎡ (107,863㎡)				
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設			大学全体	
	75室	170室	855室	14室 (補助職員0人)	8室 (補助職員2人)				
専任教員研究室		新設学部等の名称		室 数					
		総合人間自然科学研究科 教職実践高度化専攻		13 室					
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	学部・専攻単位 での特定不能な ため、大学全体 の数	
	総合人間自然科学研究科 教職実践高度化 専攻	723,315 [191,895] (723,315 [191,895])	29,572 [15,063] (29,572 [15,063])	9,956 [9,387] (9,956 [9,387])	2,791 (2791)	3,963 (3,963)	0 (0)		
	計	723,315 [191,895] (723,315 [191,895])	29,572 [15,063] (29,572 [15,063])	9,956 [9,387] (9,956 [9,387])	2,791 (2791)	3,963 (3,963)	0 (0)		
図書館		面積		閲覧座席数		収 納 可 能 冊 数		大学全体	
		9,649㎡		716		836,168			
体育館		面積		体育館以外のスポーツ施設の概要					
		3,700㎡		柔・剣道場, 弓道場, テニスコート, プール等を有している					
経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	国費による
	教員1人当り研究費等		— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	
	共同研究費等		— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	
	図 書 購 入 費		— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	
	設 備 購 入 費		— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	
	学生1人当り 納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円			
学生納付金以外の維持方法の概要			—						

大学等の名称	高知大学								所在地	
	学 部 等 の 名 称	修業 年限	入学 定員	編入学 員 定 年次 人	収容 定員	学位又 は称号	定 員 超 過 率	開設 年度		
既設大学等の状況	総合人間自然科学研究科							平成20		*平成20年度改組
	人文社会科学専攻	2	10	—	20	修士 (文学) 修士 (学術) 修士 (経済学)	0.65		高知県高知市曙町二丁目5番1号	
	教育学専攻	2	30	—	60	修士 (教育学) 修士 (学術)	0.66		高知県高知市曙町二丁目5番1号	
	理学専攻	2	75	—	150	修士 (理学) 修士 (学術)	0.59		高知県高知市曙町二丁目5番1号	
	医科学専攻	2	15	—	30	修士 (医科学) 修士 (公衆衛生学) 修士 (学術)	0.76		高知県南国市岡豊町小蓮	
	看護学専攻	2	12	—	24	修士 (看護学) 修士 (学術)	1.37		高知県南国市岡豊町小蓮	
	農学専攻	2	59	—	118	修士 (農学) 修士 (学術)	0.63		高知県南国市物部乙200	
	応用自然科学専攻	3	6	—	18	博士 (理学) 博士 (学術)	0.55		高知県高知市曙町二丁目5番1号	
	医学専攻	4	30	—	120	博士 (医学)	0.63		高知県南国市岡豊町小蓮	
	黒潮圏総合科学専攻	3	6	—	18	博士 (学術)	0.66		高知県南国市物部乙200	
	医学系研究科							平成15	高知県南国市岡豊町小蓮	*平成20年度改組に伴い募集停止
	生命医学系専攻	4	—	—	—	} 博士 (医学)	—			
	神経科学専攻	4	—	—	—		—			
社会医学専攻	4	—	—	—	—					
黒潮圏海洋科学研究科							平成16	高知県南国市物部乙200	*平成20年度改組に伴い募集停止	
黒潮圏海洋科学専攻	3	—	—	—	博士 (学術)	—				

既設大学等の状況	人文学部						平成15	高知県高知市曙町二丁目5番1号	
	人間文化学科	4	—	—	—	学士(文学) 学士(学術)	—		*平成28年度改組により募集停止
	国際社会コミュニケーション学科	4	—	—	—	学士(学術)	—		*平成28年度改組により募集停止
	社会経済学科	4	—	—	—	学士(経済学) 学士(学術)	—		*平成28年度改組により募集停止
	(学科共通)	—	—	3年次10	20				*平成30年度募集停止予定
	人文社会科学部						平成28	高知県高知市曙町二丁目5番1号	
	人文社会科学科	4	275	3年次10	550	学士(文学) 学士(学術) 学士(経済学)	1.05		*3年次編入学は平成30年度募集開始予定
	教育学部						平成15	高知県高知市曙町二丁目5番1号	
	学校教育教員養成課程	4	130	—	460	学士(教育)	1.04		*平成27年度入学定員増(30人)
	生涯教育課程	4	—	—	—	学士(教養) 学士(学術)	—		*平成27年度より募集停止
	理学部						平成19	高知県高知市曙町二丁目5番1号	
	理学科	4	—	—	—	学士(理学)	—		*平成29年度改組により募集停止
	応用理学科	4	—	—	—		—		*平成29年度改組により募集停止
	(学科共通)	—	—	3年次10	20				*平成31年度改組により募集停止
	理工学部						平成29	高知県高知市曙町二丁目5番1号	
	数学物理学科	4	55	3年次2	55	学士(理学)	1.05		*3年次編入学は平成31年度募集開始予定
	情報科学科	4	30	3年次2	30	学士(理工学)	1.10		*3年次編入学は平成31年度募集開始予定
	生物科学科	4	45	3年次2	45	学士(理学)	1.08		*3年次編入学は平成31年度募集開始予定
	化学生命理工学科	4	70	3年次2	70	学士(理工学)	1.05		*3年次編入学は平成31年度募集開始予定
	地球環境防災学科	4	40	3年次2	40	学士(理工学)	1.10		*3年次編入学は平成31年度募集開始予定
医学部						平成15	高知県南国市岡豊町小蓮		
医学科	6	110	2年次5	672	学士(医学)	1.00		*医学部医学科の収容定員のうち30名は、平成29年までの措置。 *医学部医学科の収容定員のうち60名は、平成31年までの措置。	

既設大学等の状況	看護学科	4	60	3年次 10	260	学士(看護学) 学士(学術)	1.00	平成19	高知県南国市 物部乙200	*平成28年度改組 により募集停止
	農学部									
	農学科	4	—	—	—	学士(農学)	—	平成28	高知県南国市 物部乙200	
	農林海洋科学部									
	農林資源環境科学科	4	90	—	180	学士(農学)	1.03	平成27	高知県高知市曙町 二丁目5番1号	
	農芸化学科	4	45	—	90	学士(農学) 学士(学術)	1.05			
	海洋資源科学科	4	65	—	130	学士(海洋科学)	1.03			
	地域協働学部									
地域協働学科	4	60	—	180	学士(地域協働学)	1.03				
附属施設の概要	<p>名称：高知大学大学院総合人間自然科学研究科教職実践高度化専攻附属学校教育研究センター 目的：地域社会の教育関係諸機関と連携を図りながら、地域の教育発展に寄与するとともに、教育実践に関する総合的な研究及び指導の推進を図ることを目的とする「教育学部附属教育実践総合センター」の機能の一部を継承しながら発展拡充し、教職大学院の附属施設として、全学の教職教育・教職キャリア形成等を担当する教師教育センター及び教師教育コンソーシアム高知とも連携するとともに、高知県教育委員会とも一層の連携を推進する。 設置年月：平成30年4月（予定） 規模等：敷地面積：427㎡ 延べ建物面積：531㎡</p> <p>名称：高知大学教育学部附属幼稚園 目的：幼児を保育し、適正な環境を与えて、その心身の発達を助長するとともに、高知大学教育学部における教育の理論及び方法の実証並びに学生の教育実習を行うことを目的とする。 所在地：高知県高知市小津町10-26 設置年月：昭和30年7月 規模等：敷地面積：7,847.23㎡ 延べ建物面積：1,065㎡</p> <p>名称：高知大学教育学部附属小学校 目的：心身の発達に応じて初等普通教育を施すとともに、高知大学教育学部における教育の理論及び方法の実証並びに学生の教育実習を行うことを目的とする。 所在地：高知県高知市小津町10-13 設置年月：昭和26年4月 規模等：敷地面積：21,777.41㎡ 延べ建物面積：6,621㎡</p> <p>名称：高知大学教育学部附属中学校 目的：小学校における教育の基礎の上に、心身の発達に応じて、中等教育を施すとともに、高知大学教育学部における教育の理論及び方法の実証並びに学生の教育実習を行うことを目的とする。 所在地：高知県高知市小津町10-91 設置年月：昭和26年4月 規模等：敷地面積：25,503.94㎡ 延べ建物面積：6,527㎡</p>									

<p>附属施設の概要</p>	<p>名称：高知大学教育学部附属特別支援学校 目的：知的障害児に対して，小学校・中学校及び高等学校に準ずる教育を行い，併せて，その能力に応じて，社会的自立に必要な知識，技能，態度を養うとともに，高知大学教育学部における障害児教育の理論及び方法の実証並びに学生の教育実習を行うことを目的とする。 所在地：高知県高知市曙町二丁目5-3 設置年月：昭和45年4月 規模等：敷地面積：13,155.92㎡ 延べ建物面積：3,567㎡</p> <p>名称：高知大学理工学部附属高知地震観測所 目的：地震、潮位等の観測により自然地震の発生機構、地殻構造、地盤変動等の解明及び地震予知に関する研究を行い、あわせて学生の実験実習を行うことを目的とする。 所在地：高知市朝倉本町二丁目17-47 設置年月：昭和41年4月 規模等：敷地面積：263㎡ 延べ建物面積：527㎡</p> <p>名称：高知大学理工学部附属水熱化学実験所 目的：主として高温、高圧の水が関与する物質の挙動について研究を行い、あわせて学生の実験実習に供することを目的とする。 所在地：高知市朝倉本町二丁目17-47 設置年月：昭和48年4月 規模等：敷地面積：404㎡ 延べ建物面積：1,542㎡</p> <p>名称：高知大学医学部附属病院 目的：診療を通じて，医学の教育及び研究を行うことを目的とする。 所在地：高知県南国市岡豊町小蓮185-1 設置年月：昭和56年4月（開設：昭和56年10月） 規模等：敷地面積：81,004.04㎡ 延べ建物面積：44,667.79㎡</p> <p>名称：高知大学農林海洋科学部附属暖地フィールドサイエンス教育研究センター 目的：フィールドサイエンスに関する実践的教育研究を推進するとともに，共同研究，人的交流等の促進を通して，地域社会及び国際社会に貢献することを目的とする。 所在地：高知県南国市物部乙200，高知県香美市土佐山田町上穴内 設置年月：平成15年4月 規模等：敷地面積：1,638,971㎡ 延べ建物面積：7,038㎡</p>	<p>附属施設単位で特定不能のため、敷地面積及び延べ建物面積は所在地全体の数</p>
----------------	--	--

(別紙)

国立大学法人高知大学 設置認可に関わる組織の移行表

改組前

平成30年度

学部等の名称	入学定員	編入学定員	収容定員
高知大学			
高知大学大学院			
総合人間自然科学研究科			
人文社会科学専攻	10	—	20
教育学専攻	30	—	60
理学専攻	75	—	150
医科学専攻	15	—	30
看護学専攻	12	—	24
農学専攻	59	—	118
応用自然科学専攻	6	—	18
医学専攻	30	—	120
黒潮圏総合科学専攻	6	—	18
計	243	—	558

学部等の名称	入学定員	編入学定員	収容定員	変更の事由
高知大学				
高知大学大学院				
総合人間自然科学研究科				
人文社会科学専攻	10	—	20	
教育学専攻	12	—	24	定員変更(△18)
理学専攻	75	—	150	
医科学専攻	15	—	30	
看護学専攻	12	—	24	
農学専攻	59	—	118	
教職実践高度化専攻	15	—	30	専攻の設置(意見伺い)
応用自然科学専攻	6	—	18	
医学専攻	30	—	120	
黒潮圏総合科学専攻	6	—	18	
計	240	—	552	

人文社会科学部	275			1,120
人文社会科学科	275	3年次	10	
教育学部	130			520
学校教育教員養成課程	130	—		
理工学部	240			980
数学物理学科	55	3年次	2	
情報科学科	30	3年次	2	
生物科学科	45	3年次	2	
化学生命理工学科	70	3年次	2	
地球環境防災学科	40	3年次	2	
医学部	170			945
医学科	110	2年次	5	
看護学科	60	3年次	10	
農林海洋科学部	200			800
農林資源環境科学科	90			
農芸化学科	45			
海洋資源科学科	65			
地域協働学部	60			240
地域協働学科	60	—		
計	1,075	3年次	30	4,605
		2年次	5	
計	1,318	—		—

→

人文社会科学部	275			1,120
人文社会科学科	275	3年次	10	
教育学部	130			520
学校教育教員養成課程	130	—		
理工学部	240			980
数学物理学科	55	3年次	2	
情報科学科	30	3年次	2	
生物科学科	45	3年次	2	
化学生命理工学科	70	3年次	2	
地球環境防災学科	40	3年次	2	
医学部	165			915
医学科	105	2年次	5	
看護学科	60	3年次	10	
農林海洋科学部	200			800
農林資源環境科学科	90			
農芸化学科	45			
海洋資源科学科	65			
地域協働学部	60			240
地域協働学科	60	—		
計	1,070	3年次	30	4,575
		2年次	5	
計	1,310	—		—

* 医学部医学科の収容定員18名の増加については、平成31年度までの措置。(平成22年12月認可済)

* 医学部医学科の収容定員のうち42名の増加については、平成31年度までの措置。(平成21年12月認可済)

* 医学部医学科の収容定員のうち30名は、平成29年度までの措置。(平成20年8月認可済)

教育課程等の概要																
(総合人間自然科学研究科 専門職学位課程 教職実践高度化専攻)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
共通科目	教育課程の編成・実施に関する領域	開かれた教育課程の開発と実践	1・後	2			○			1					兼1	共同※演習
		ユニバーサルデザインに基づく特別の教育課程の開発と実践	1・前	2			○			1					兼1	共同※演習
	教科等の実践的な指導方法に関する領域	教育方法と授業研究の理論と実践	1・後	2			○			2		1				共同※演習
		アクティブラーニングの理論と実践	1・前		2		○				1	1				共同※演習
		道徳教育の理論と実践	1・前		2		○			1	1				兼1	共同※演習
	生徒指導及び教育相談に関する領域	変動する社会と生徒指導の理論と実践	1・前	2			○			1	1				兼2	共同※演習
		教育相談の理論と実践	1・後		2		○				2				兼1	共同※演習
		不登校・いじめの組織的予防と解決	1・前		2		○			1	1					共同※演習
	学級経営及び学校経営に関する領域	学校組織マネジメントの理論と実践	1・前	2			○			2						共同※演習
		学級経営の理論と実践	1・後	2			○			2						共同※演習
	学校教育と教員の在り方に関する領域	高知県の学校教育をめぐる現代的課題	1・前	2			○			2	1					共同※演習
		高知県における教員の実践的力量形成	1・前	2			○			1	2					共同※演習
	小計(12科目)	—	16	8			—		7	4	1			兼6		
専門科目	学校運営コース	学校管理職の役割と実践	1・前		2		○			2					兼1	共同※演習
		学校組織開発の理論と実践	1・前		2		○								兼1	集中
		組織的な授業開発	1・後		2		○			1	1	1				共同※演習
		学校に求められるリスクマネジメント	1・後		2		○			1					兼1	オムニバス※演習
		学校組織開発のための学校評価	1・後		2		○								兼1	集中
		高知県の地域教育リソース開発	1・後		2		○			2						共同※演習
		学校組織開発演習	2・後		2			○							兼1	集中
	小計(7科目)	—		14			—		4	1	1			兼2		
教育実践コース	ICT活用における授業設計	1・前		2		○								兼1	集中	
	小学校外国語活動と英語教育	1・前		2		○								兼1	※演習	
	児童生徒理解と人権教育	1・後		2						2					オムニバス集中	
	学級経営の開発的実践	1・前		2		○			1						※演習	
	授業研究開発と教育評価	1・後		2		○				1				兼2	共同※演習	
	理科学習指導法の理論と実践	1・前		2		○			1					兼2	共同※演習	
	理科教材研究・開発の理論と実践	1・後		2		○			1					兼4	共同※演習	
	理科教育マネジメントの理論と実践	2・前		2		○			1					兼1	共同※演習	
	授業方法演習	2・前		2				○		1					兼8	※講義
	教材開発演習	2・前		2				○		1					兼11	※講義
授業デザイン	2・後		2				○							兼9	オムニバス・共同※講義	
小計(11科目)	—		22			—		3	3				兼23			

特別支援教育コース	特別支援教育の理論と推進・連携体制の構築	1・後	2	○		1						※演習		
	特別支援教育認知能力評価の基礎と実際	1・前	2	○							兼1	※演習		
	限局性学習症指導の理論と実際	1・後	2	○							兼1	※演習		
	注意欠如多動症評価の基礎と実際	1・前	2	○		1						※演習		
	注意欠如多動症指導の理論と実際	1・後	2	○		1						※演習		
	特別支援教育ライフスキル評価の基礎と実際	1・前	2	○							兼1	集中		
	特別支援教育ライフスキル指導の理論と実際	1・後	2	○							兼1	集中		
	自閉スペクトラム症評価の基礎と実際	1・前	2	○							兼1	※演習		
	自閉スペクトラム症指導の理論と実際	1・後	2	○							兼1	※演習		
	特別支援教育発達評価の基礎と実際	1・前	2	○							兼1	※演習		
	知的障害指導の理論と実際	1・後	2	○				1			兼1	共同 ※演習		
	肢体不自由評価の基礎と実際	1・前	2	○		1					兼1	共同 集中		
	肢体不自由指導の理論と実際	1・後	2	○							兼1	集中		
	病弱評価の基礎と実際	1・前	2	○							兼1	集中		
	病弱指導の理論と実際	1・後	2	○							兼1	集中		
	特別支援教育演習	2・前	2		○	1	1	1			兼3	共同 ※講義		
小計 (16科目)	—		32		—	1	1	1			兼5			
総合実践力科目	学校運営コース	教育実践研究Ⅰ (学校運営)	1・通	2	学校運営 コース 必修科目	○	7	4	1				共同 集中 ※講義	
		教育実践研究Ⅱ (学校運営)	2・前	2		○	7	4	1				共同 集中 ※講義	
		教育実践研究Ⅲ (学校運営)	2・後	2		○	7	4	1				共同 集中 ※講義	
		総合実践研究 (学校運営)	2・後	2		○	7	4	1				共同 集中 ※講義	
	教育実践コース	教育実践研究Ⅰ (教育実践)	1・通	2	教育実践 コース 必修科目	○	7	4	1				共同 集中 ※講義	
		教育実践研究Ⅱ (教育実践)	2・前	2		○	7	4	1				共同 集中 ※講義	
		教育実践研究Ⅲ (教育実践)	2・後	2		○	7	4	1				共同 集中 ※講義	
		総合実践研究 (教育実践)	2・後	2		○	7	4	1				共同 集中 ※講義	
	特別支援教育コース	教育実践研究Ⅰ (特別支援教育)	1・通	2	特別支援 教育 コース 必修科目	○	1	1	2				兼3 共同 集中 ※講義	
		教育実践研究Ⅱ (特別支援教育)	2・前	2		○	1	1	2				兼3 共同 集中 ※講義	
		教育実践研究Ⅲ (特別支援教育)	2・後	2		○	1	1	2				兼3 共同 集中 ※講義	
		総合実践研究 (特別支援教育)	2・後	2		○	1	1	2				兼3 共同 集中 ※講義	
	小計 (12科目)	—		24		8	5	3			兼3			
	実習科目	学校運営コース	学校運営リーダー実習Ⅰ	1・通	4	学校運営コース 必修科目	○	7	4	1				共同 集中
			学校運営リーダー実習Ⅱ	2・前	4		○	7	4	1				共同 集中
			学校運営リーダー実習Ⅲ	2・後	2		○	7	4	1				共同 集中
教育実践コース		教育実践高度化実習Ⅰ (学部卒用)	1・通	4	教育実践コース 学部卒院生 必修科目	○	7	4	1				共同 集中	
		教育実践高度化実習Ⅱ (学部卒用)	2・前	4		○	7	4	1				共同 集中	
		教育実践高度化実習Ⅲ (学部卒用)	2・後	2		○	7	4	1				共同 集中	
		教育実践高度化実習Ⅰ (現職教員用)	1・通	4	教育実践コース 現職教員院生 必修科目	○	7	4	1				共同 集中	
		教育実践高度化実習Ⅱ (現職教員用)	2・前	4		○	7	4	1				共同 集中	
		教育実践高度化実習Ⅲ (現職教員用)	2・後	2		○	7	4	1				共同 集中	
														共同 集中

特別支援教育コース	特別支援教育実習Ⅰ（学部卒用）	1・通		4	特別支援教育 コース 学部卒院生 必修科目	○	1	1	2			兼3	共同 集中 共同 集中 共同 集中 共同 集中
	特別支援教育実習Ⅱ（学部卒用）	2・前		4		○	1	1	2			兼3	
	特別支援教育実習Ⅲ（学部卒用）	2・後		2		○	1	1	2			兼3	
	特別支援教育実習Ⅰ（現職教員用）	1・通		4	特別支援教育 コース 現職教員院生 必修科目	○	1	1	2			兼3	
	特別支援教育実習Ⅱ（現職教員用）	2・前		4		○	1	1	2			兼3	
	特別支援教育実習Ⅲ（現職教員用）	2・後		2		○	1	1	2			兼3	
	小計(15科目)	—		50		—	8	5	3			兼3	
合計（73科目）		—	16	150		—	8	5	3			兼35	
学位又は称号		教職修士（専門職）		学位又は学科の分野		教員養成関係							
修了要件及び履修方法						授業期間等							
【修了要件】 共通科目20単位以上，専門科目8単位以上，総合実践力科目8単位、実習科目10単位の合計46単位以上を修得すること。 【履修方法】 ・共通科目について，5つの領域から各4単位以上の計20単位を修得すること。 ・専門科目について，コースに関する科目8単位を修得すること。 ・総合実践力科目について，コースに関する科目8単位を修得すること。 ・実習科目について，コース・対象に関する実習Ⅰ～Ⅲの計10単位を修得すること。 履修登録上限単位数 22単位（1学期あたり）						1学年の学期区分		2学期					
						1学期の授業期間		15週					
						1時限の授業時間		90分					

授 業 科 目 の 概 要			
(総合人間自然科学研究科 専門職学位課程 教職実践高度化専攻)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通科目	教育課程の編成・実施に関する領域	<p>本科目では、「社会に開かれた教育課程」が求められる社会的背景を踏まえ、高知県における教育課題である「探究的な授業づくりのための教育課程の実践」に向けて、学校種間のつながりや教科横断的な教育内容の編成を検討する。また、「チーム学校」の概念や、地域・社会との連携、協働という視点を組み込んだ教育課程の実践例から、その利点と現状の課題を理解する。さらに、開かれた教育課程を開発し、持続させていくための管理職と各教員の責任を「カリキュラム・マネジメント」の視点から考察し、学校種間のつながり、教科横断型あるいは地域連携の視点を組み込んだ教育課程を実際に作成し、学校教育の目標に基づいた教育課程を開発する力を付けていく。</p> <p>⑩ 楠瀬弘哲 具体的なカリキュラムの事例検討や、高知県の教育課題について主たる役割を果たす。</p> <p>⑲ 小島郷子 全体の総括・調整を行う。</p>	<p>共同 ※演習</p> <p>講義 16時間 演習 14時間</p>
	ユニバーサルデザインに基づく特別の教育課程の開発と実践	<p>「ユニバーサルデザインに基づく特別の教育課程の開発と実践」では教育内容の広範かつ一般的な計画としての教育課程について、支援が必要な子どもも包括したユニバーサルデザインとして実践する方法について学ぶ。具体的には「特別の教育課程」の定義と内容を理解した上で、実態把握法、指導法、教育評価法、個別の指導計画立案方法、教育評価による指導効果の検証方法について基礎的知識や力量の獲得をめざす。</p> <p>講義では、共通科目として幼・小・中・高および特別支援学校の所属学校種の違いや現職教員院生と学部卒の院生を考慮し、事例を用いた講義、対話型の講義構成、随時の文献提示による共通の知識理解に基づいた講義を行うように、最新の事例研究の知見を受講生が調べてレポートして検討するという形態も取り入れつつ、講義を構成する。</p> <p>本授業では、特別支援教育対象児も含めた多様な子どもに対して授業を行う、指導者としての力量形成として、個と集団を指導する力と教育課程をキーワードとし、受講生が各々の関心に従って実践的知識の習得をめざす。</p> <p>④ 是永かな子 全体と総括・調整を行う。</p> <p>⑳ 芝野 稔 実務経験を踏まえて、教育現場からの視点を提供することで主な役割を務める。</p>	<p>共同 ※演習</p> <p>講義 24時間 演習 6時間</p>
	教科等の実践的な指導方法に関する領域	教育方法と授業研究の理論と実践	<p>新学習指導要領のねらいを深く理解し、高知県の学力向上における課題を明らかにした上で、教育課程の編成の問題、学習指導における教授の問題について検討し、学習指導要領を踏まえた授業づくりの実践的方法について学ぶ。実際に教育経験のある現職教員受講生が、各回のテーマに沿って資料を準備し、他の受講生とともにディスカッションやレポートによる意見交換を通して、教育方法と授業研究における理論と実践の融合した授業実践のあり方を明らかにする。</p> <p>② 中野俊幸 算数・数学を中心に、教育方法と授業研究の理論の教授を担当</p> <p>⑧ 古市直樹 教育方法学の観点から、教育方法と授業研究の理論の教授を担当</p> <p>⑩ 楠瀬弘哲 理科を中心に、教育方法と授業研究の実践的研究方法の教授を担当</p>

<p>アクティブラーニングの理論と実践</p>	<p>本科目では、いわゆるアクティブラーニング（活動的・協同的・省察的な学び）に関する理論や実践について学ぶ。 アクティブラーニングを基礎づけている資質・能力論や評価論や教師教育論や学校論だけではなく、授業における行為やコミュニケーションに関する実証的研究の成果、小集団学習等に関する実証的研究の成果、そして「学びの共同体」等の近年の学校現場における取り組みも扱い、教育方法学における多様な観点からアクティブラーニングについて学ぶ。 授業では、毎回、ワークシートを用いたグループワークに基づいて考察を行う。検討対象について、まず自身の最初の考えを記述する。そして、グループ内でそれを共有し合ったうえでコメントを合わせる。その際に、各々の最初の考えや、各々から各々へのコメントを、各々が丁寧に聴き取ったうえで自身のことばで記述する。なお、授業冒頭で授業者が提供した論点や話題も、各々が簡単に書き留めたうえで自身の考えの記述や他者へのコメントに反映させる。授業終盤または授業後に、各自が、上記のグループワークに基づく新たな自身の考えを別紙に記述する。</p> <p>⑥ 野村幸代 全体の総括・調整を行う。</p> <p>⑦ 古市直樹 小集団学習や授業に関する学術的な知見（行為・身体・物・空間のありようやコミュニケーションに関する実証的研究の成果等）を扱う上で主たる役割を果たす。</p>	<p>共同 ※演習</p> <p>講義 24時間 演習 6時間</p>
<p>道徳教育の理論と実践</p>	<p>道徳教育及び道徳科の趣旨、内容、指導方法、道徳教育に関する理論的背景や道徳性の発達に関する理論等についての理解をもとに、効果的な道徳教育を創造し展開するための協議や事例検討、指導計画や学習指導案の作成及び模擬授業等の演習を行う。その際、高知県における生徒指導上の課題などの現状と分析を踏まえ、生徒指導の取組を含めた道徳教育に関する多様な実践事例についても考察・検討する。 その上で、道徳教育における課題の解決に向けて、カリキュラムマネジメントや学習指導についての具体的な実践を構想し、発表・演習を行うことによって、道徳教育のカリキュラムマネジメント力や道徳科の学習指導に関する実践力を養っていく。</p> <p>⑪ 岡田倫代 生徒教育と道徳指導の関連、高等学校における実践の指導について主たる役割を果たす。</p> <p>⑫ 森 有希 道徳教育に関する全体的な内容、小・中学校における実践、高知県における道徳教育の課題や事例検討の指導について主たる役割を果たす。</p> <p>18 岡谷英明 道徳教育に関する理論的背景や道徳性の発達に関する理論の指導について主たる役割を果たす。</p>	<p>共同 ※演習</p> <p>講義 16時間 演習 14時間</p>
<p>生徒指導及び教育相談に関する領域</p> <p>変動する社会と生徒指導の理論と実践</p>	<p>本科目では、多様・複雑化する社会に生きる児童生徒の全人的な成長・発達を促進するために、いじめ、不登校、自殺、学級崩壊や校内暴力など教育的諸問題の解決に向けて、生徒指導が担う役割や課題について検討する。そのために、生徒理解を深めるための協議や事例検討を行う。さらに学校内はもとより地域や関係専門機関等における適切な連携、協働体勢を構築し推進していくことの意義や具体的方法について考察する。 それにより、学校内外の情報を迅速に収集し、適切に生徒の状態や課題を理解する力を身に付ける。さらに生徒指導の様々な方法を熟知し、明確な生徒指導方針のもと、地域や関係専門機関と行動連携しながら効果的な教育活動を展開できる力を身に付ける。</p> <p>⑪ 岡田倫代 全体の総括・調整を行う。</p> <p>⑭ 大西雅人 いじめ問題や生徒指導と学級経営等の高知県における課題の検討において主たる役割を果たす。</p> <p>31 加藤誠之 非行・不登校の具体事例の検討において主たる役割を果たす。</p> <p>44 横山卓 変動する社会状況の検討について主たる役割を果たす。</p>	<p>共同 ※演習</p> <p>講義 16時間 演習 14時間</p>

<p>教育相談の理論と実践</p>	<p>本科目では、教育相談に関わる基礎的内容から応用・実践的内容までを、高知県の実状等を踏まえながら系統的に講義する。はじめに「話の聴き方」など基礎事項を取り上げ、続いて、子どもたちに見られる教育臨床的問題と具体的支援方法について取り上げる。最後にこれらの学習内容を踏まえながら、架空ケースや実際のケースについてアセスメントと、アセスメント結果に基づく支援計画立案を行う。これらを通して、様々な教育臨床的問題を理解把握し対応する力と、それらを学級経営や学校経営に活かしていく力を育成する。</p> <p>⑦ 古口高志 教育相談に関する全体的な内容、子どもたちの様々な教育臨床的問題の内容やアセスメント方法の指導について主たる役割を果たす。</p> <p>⑭ 大西雅人 教育相談と生徒指導との関連、ならびに子どもたちの自尊感情・自己肯定感の問題に関する指導について主たる役割を果たす。</p> <p>32 金山元春 様々な教育臨床的問題の予防や問題軽減のための支援技法の指導について主たる役割を果たす。</p>	<p>共同 ※演習</p> <p>講義 18時間 演習 12時間</p>
<p>不登校・いじめの組織的予防と解決</p>	<p>本科目では、不登校・いじめの組織的予防と解決のための方策について、さまざまなタイプの事例論文（ケース論文、症例研究、実践研究）の抄読を通して学習する。まずそのために必要な基礎知識に関する講義を行う。そのうち複数のタイプの不登校事例論文、いじめ事例論文を取り上げながら、論文文中に取り上げられる各種疾患や支援技法について学び、さらにそれをもとに事例や取組の全体像と支援の経過・効果について学習する。このように、実際の事例や取組の文脈の中で様々な問題や支援技法を学ぶことにより、単に「〇〇障害とは?」「〇〇療法とは?」のような形でぶつ切りの知識を学ぶよりも高い学習効果が期待できる。これらを通して、不登校やいじめの問題について広くかつ深く理解し組織的に対応する力と、それらを学級経営や学校経営に活かしていく力を育成する。</p> <p>⑦ 古口高志 不登校・いじめの組織的予防と解決について、科学的エビデンスに基づく実践に関する指導について主たる役割を果たす。</p> <p>⑪ 岡田倫代 不登校・いじめの組織的予防と解決について、学校現場での実践や地域との連携実践の観点からの指導について主たる役割を果たす。</p>	<p>共同 ※演習</p> <p>講義 18時間 演習 12時間</p>
<p>学級経営及び学校経営に関する領域</p> <p>学校組織マネジメントの理論と実践</p>	<p>分権的教育改革が進展する中で、学校には自律的に学校改善を行っていく力が求められ、組織改革・経営改革が大きく進展を始めている。学校が自己改善を進め教育の質を向上させていくためには、副校長や主幹教諭、指導教諭の新設といった学校組織改革を効果的に活用することや学校経営に組織マネジメントを取り入れることで、学校の組織的力を向上させていくことが必要不可欠である。</p> <p>こうした学校組織マネジメントに関する知識と技術は、校長や教頭などの管理職だけに必要な能力ではなく、すべての教職員に必要な能力である。また、これからの学校運営においては、保護者や地域住民の学校運営への参画を求め、地域の特性を生かした特色ある開かれた学校を形成していくことも求められている。</p> <p>本授業では以上のようなテーマに基づき、学校組織改革に関する政策動向、学校組織・学校経営に関する制度、学校経営と教育行政の関係、学校経営への保護者地域住民の参画、海外の教育改革等の検討を通して、現代の学校において必要とされる組織マネジメントを実践できる力と、開かれた学校づくりを進めていく力量を身につけることを目標とする。</p> <p>授業においては、講義と併せて受講生の勤務校の学校経営計画の検討・改善を通してこれらの力を育成する。</p> <p>③ 柳林信彦 全体の統括・調整を行う。</p> <p>⑨ 永野隆史 高知県の取組について担当するとともに、授業では管理職・行政職経験に基づく視点で主な役割を務める。</p>	<p>共同 ※演習</p> <p>講義 18時間 演習 12時間</p>

	学級経営の理論と実践	<p>学級経営の目的と方法を踏まえ、学級集団の理解とその中での個々の発達課題を視野に入れた準拠集団の形成過程について理解する。また、学級経営の在り方について、講義や文献講読、事例検討やグループワークを通して学び、教育現場において学級経営に関わる教育活動を実践する際の意義や注意点、学級における危機管理の在り方等について、理論的・実践的な視点から考察する。さらに、各自の学級経営プランに基づいたグループワークの効果的な取組に対する提案・討論を行う。</p> <p>① 鹿嶋真弓 学級経営に関する理論的な視点からの指導において主な役割を務める。</p> <p>⑪ 岡田倫代 学級経営に関する実践的な視点からの指導において主な役割を務める。</p>	<p>共同 ※演習</p> <p>講義 18時間 演習 12時間</p>
学校教育と教員の在り方に関する領域	高知県の学校教育をめぐる現代的課題	<p>小規模校・複式学級等に関する高知県の地域的特性、中学校の学力問題や児童生徒の思考力・判断力・表現力の弱さなどの高知県独自の課題について理解し、課題の要因を分析する。また、高知県の教育課題について、学校教育運営、学級経営や学習指導などの教育実践、特別支援教育の視点で、その実践事例について考察・検討を行う。</p> <p>その上で、高知県における教育課題解決のためのプランを自身で構想・立案し、発表・演習を行うことによって、教育実践や特別支援教育に関する学習指導力と、高知県における教育課題を解決するための戦略マネジメント力を養っていく。</p> <p>④ 是永かな子 特別支援教育に関する部分において主たる役割を果たす。</p> <p>⑪ 永野隆史 学校教育運営に関する部分において主たる役割を果たす。</p> <p>⑫ 森 有希 教育実践に関する部分において主たる役割を果たす。</p>	<p>共同 ※演習</p> <p>講義 16時間 演習 14時間</p>
	高知県における教員の実践的 力量形成	<p>地域に根差した学びの接続（幼保小、小中、中高の連携・一貫教育）や社会的資源を活用した教育課題の解決についての原理を理論的に学ぶとともに、高知県における学校現場の事例を題材とした演習に取り組むことで、現状の課題を発見し、具体的な対応策を立案・検討する能力を養う。また、地域の特性を踏まえた教育に関する最新の理論を習得し、演習を通した双方向的な学習によって力量を構築する。</p> <p>① 鹿嶋真弓 教育課題の解決についての原理を理論的に指導する場面で主な役割を務める。</p> <p>⑥ 野村幸代 教師教育の分野で主な役割を務める。</p> <p>⑫ 森 有希 高知県の教育課題や学校現場の事例の提案において主な役割を務める。</p>	<p>共同 ※演習</p> <p>講義 18時間 演習 12時間</p>

専 門 科 目	学 校 運 営 コ ー ス	学校管理職の役割と実践	<p>現在、高知県内の学校は、学力向上やいじめ、不登校等の生徒指導上の諸問題を始めとし、様々な課題に直面している。また知識基盤社会に対応する学びの構築を始め、児童生徒が変化、進展の激しいこれからの社会を生き抜くために必要とされ、期待される力を身に付けてもらうための学校の在り方も問われている。これらの課題や要請に応える学校づくりを行うために学校管理職はどのような役割を担うのかを、学校経営の実際を分析しながら、課題解決の方法を見出し、これからの時代に応えられる学校経営実践力を身に付けていく。</p> <p>③ 柳林信彦 全体の総括・調整を行う。</p> <p>⑨ 永野隆史 高知県における現状や課題の解説と学校管理職経験に基づく視点において主な役割を果たす。</p> <p>29 藤本富一 学校管理職の役割に関する法的・制度的内容について主な役割を果たす。</p>	<p>共同 ※演習</p> <p>講義 16時間 演習 14時間</p>
		学校組織開発の理論と実践	<p>学校は、企業体のように変化するとか挑戦するということが自動化されていない。むしろ、児童生徒へのリスクを回避するために、不易を重んじる傾向にあるし、公教育機関として制度的に存在が保障されてきた。しかし、現代の学校は、地球温暖化や縮小社会状況の進展、ICTやAIの発達など急激な社会変動に晒されており、これまで以上に、その変化に不断に適応していく組織体であることが厳しく問われるようになってきた。こうした状況を受けて、高知県においても「土佐の教育改革」をはじめ、学校管理職に対する学校組織マネジメント研修の実施、主幹教諭等の配置や保幼小中連携事業の推進などに取り組んできた。しかしなお、その効果は必ずしも十分に発揮されているとは言い難い状況にある。</p> <p>そこで、本科目は、学校を組織に組み上げていくために必要な基礎的な理論を講じ、これからのスクール・リーダに求められる知識とスキルの向上を果たす。</p>	<p>集中</p>
		組織的な授業開発	<p>本科目では、教師たち自身による授業研究 (lesson study) に関する理論と実践を検討する。教師の専門性の核をなす授業づくりの力を解明し、その育成を支えるために、授業研究におけるこれまでの成果について学び、最新の授業研究の理論と方法を理解し、反省的实践家として学び続ける教師を目指す。特に、校内研修としての授業研究会に焦点を合わせることで、効果的な検討会を行える力を身につけることを通して、学校現場における教師たちによる協同的な授業研究の方法を探究する。</p> <p>授業では、毎回、ワークシートを用いたグループワークに基づいて、校内研修としての授業研究会の具体例について考察を行う。検討対象について、まず自身の最初の考えを記述する。そして、グループ内でそれを共有し合ったうえでコメントをし合う。その際に、各々の最初の考えや、各々から各々へのコメントを、各々が丁寧に聴き取ったうえで自身のことばで記述する。なお、授業冒頭で授業者が提供した論点や話題も、各々が簡単に書き留めたうえで自身の考えの記述や他者へのコメントに反映させる。授業終盤または授業後に、各自が、上記のグループワークに基づく新たな自身の考えを別紙に記述する。</p> <p>② 中野俊幸 授業分析の理論的視点の教授において主な役割を務める。</p> <p>⑥ 野村幸代 全体の総括・調整を行う。</p> <p>⑧ 古市直樹 検討対象となる具体例の準備や、議論の促進・評価を行う。</p>	<p>共同 ※演習</p> <p>講義 16時間 演習 14時間</p>

<p>学校に求められるリスクマネジメント</p>	<p>現代日本の社会は、様々なリスクと隣り合わせであり、まさにリスク社会と言うことができる。教育現場においても体罰やいじめなどの児童生徒の生徒指導に潜むリスク、保護者や地域住民の多様なニーズに関わるリスク、学校防災や学校安全にかかわるリスク、教育活動上の事故などのリスクなど、様々なレベルのリスク対応が求められている。</p> <p>以上を踏まえ、本授業では、学校や教育に関連する法律の理解や教育判例の考察を通して、学校事故やトラブルへの対応、教師の注意義務や加害/被害児童への教育的配慮の在り方、学校の裁量範囲などについての理解を深め、それらを自分なりに考え、実践しうる能力を養うことを目的とする。</p> <p>授業においては、前半部では、生徒指導・学校事故・教員の処遇などに関しての教育判例を取り上げ、その背景や要因を分析・検証しながら、学校のリスクマネジメントの基本を明らかにしていく。後半部分では、学校事故や重大インシデントが発生した場合の、保護者対応や関係機関、報道機関等への対応の仕方など、リスクマネジメントのための外部機関との関わりについて、具体的事例をもとに考察していく。</p> <p>最終的には、得られた知見を活用した受講生間のディスカッションを通して、勤務校の取り組みを捉え直し、より効果的なリスクマネジメント計画を立案する。</p> <p>本授業では、個人による判例調べや班別での事例研究やロールプレイング等を積極的に活用し、受講生の主体的な学びを促していく。</p> <p>第1回 (③ 柳林信彦、29 藤本富一) 学校におけるリスクマネジメントの必要性</p> <p>第2回 (29 藤本富一) 学校リスクマネジメントに関する法の基本</p> <p>第3回 (③ 柳林信彦) 学校・教育裁判判例検討：生徒指導編①</p> <p>第4回 (③ 柳林信彦) 学校・教育裁判判例検討：生徒指導編②</p> <p>第5回 (③ 柳林信彦) 学校・教育裁判判例検討：生徒指導編③</p> <p>第6回 (③ 柳林信彦) 学校・教育裁判判例検討：学校事故編①</p> <p>第7回 (③ 柳林信彦) 学校・教育裁判判例検討：学校事故編②</p> <p>第8回 (③ 柳林信彦) 学校・教育裁判判例検討：管理運営編①</p> <p>第9回 (③ 柳林信彦) 学校・教育裁判判例検討：管理運営編②</p> <p>第10回 (③ 柳林信彦) 学校・教育裁判判例検討：管理運営編③</p> <p>第11回 (29 藤本富一) 自然災害と防災教育</p> <p>第12回 (29 藤本富一) 学校のリスクマネジメントと外部機関との連携協働</p> <p>第13回 (29 藤本富一) 家庭との関係におけるリスクマネジメント</p> <p>第14回 (③ 柳林信彦、29 藤本富一) 学校危機管理マニュアルの検証</p> <p>第15回 (③ 柳林信彦、29 藤本富一) 学校危機管理マニュアルの作成と検討</p>	<p>オムニバス ※演習</p> <p>講義 22時間 演習 8時間</p>
<p>学校組織開発のための学校評価</p>	<p>日本の初等中等学校は長く制度依存し、さらには慣習依存し、その結果、自らの営みを反省的に捉え返し、成果を確かめ、次なるステップを実績に応じて組み上げていくというマネジメント・サイクルを確立しえてこなかった。それは、学校が経営体としての自律性を十分に有してこなかったこと以上に、そもそも学校が経営機能を発揮しうるだけの組織になりきれていないことに起因する。文部科学省が示している「学校評価ガイドライン」において、「学校の目標設定」や「全教職員の参加」を説いているのも、そうした問題認識に基づくものと理解される。一方、高知県において第1期「土佐の教育改革」において「授業評価システム」の導入が試みられたが、やはり定着に至らなかった。その反省のもと、高知県教育委員会では、高知県版の学校評価ガイドラインの策定など、各校への学校評価の普及・定着を図る試みを重ねてきたが、なお多くの課題を残している。</p> <p>そこで、本科目では、高知県に適した学校評価システムの確立を企図し、学校がマネジメント・サイクルを機能させていくプロセス設計を果たし、組織的に取り組む学校評価のあり方を探究する。</p>	<p>集中</p>

高知県の地域教育リソース開発	<p>変化の激しい時代において、学校を取り巻く環境は厳しさを増す一方であり、社会の要請に応えるには従前の学校経営では応じられなくなってきた。高知県においても学校教育に内在する様々な問題を捉えても、その解決には、学校内部の取り組みだけでは到底解決できない状況が生まれている。また、子供たちに、これからの社会において求められる、資質や能力を身に付けてもらうためには、多様な知識や経験を持つ人材を始めとし地域の資源、フィールドを生かすことが重要である。加えて、地域振興や防災等の観点からも、学校が地域の発展や安全にどのように参画できるかも問われている。</p> <p>こうしたことから、これらの課題や要請に応える学校づくりを行うために、実際の学校経営を分析しながら、地域の様々な資源をどのように学校経営に生かすことができるかを実際の学校経営に照らして考察する。</p> <p>⑨ 永野隆史 全体の統括・調整を行う。 小・中学校の事例・実践の検討・指導において主な役割を果たす。</p> <p>⑩ 岡田倫代 高等学校の事例・実践の検討・指導において主な役割を果たす。</p>	<p>共同 ※演習</p> <p>講義 16時間 演習 14時間</p>
学校組織開発演習	<p>1年次で学んだ共通科目、とりわけ「学校組織マネジメントの理論と実践」、さらに「学校組織開発の理論と実践」をはじめとした学校運営コース専門科目と、「学校教育運営リーダー実習Ⅰ」及び「同Ⅱ」での学修を基礎に、より実践的な学校組織開発を推進する着眼点と推進ポイントを、ワークショップやグループ・ディスカッションを通じて理解し、効果的な教育的リーダーシップの発揮の仕方を修得して、優れた学校教育運営リーダーとしての資質・能力を向上させる。</p>	<p>集中</p>
教育実践コース	<p>ICT活用における授業設計</p> <p>中央教育審議会答申及び次期学習指導要領においても、ICT活用や情報活用能力の重要性が述べられている。また、昨今のICT環境の整備も進んできている。そのような中、どのように関わっていけば良いのか、教育の情報化、およびICTと授業設計に関する基礎知識を具体的な事例や制作活動の演習などを通して理解する。特に、「知識・技能の習得」「思考力・表現力の育成」「情報モラル」「教員研修」「デジタル教科書」などのトピックについて理解する。</p>	<p>集中</p>
小学校外国語活動と英語教育	<p>低学年化および教科化される小学校の意義、および、プロジェクト型の学習形態を取り入れた授業の有効性、近年注目を浴びその実践が盛んに行われている音声や文字、そして、英語で書かれた絵本の利用の仕方について実践を通して理解を深める。また、プロジェクト型の学習形態を取り入れている授業を参観し、その授業分析を行うことで、自身の勤務校でプロジェクト型外国語活動をどのように取り組むべきかについて考えを深める。</p>	<p>※演習</p> <p>講義 20時間 演習 10時間</p>

<p>児童生徒理解と人権教育</p>	<p>本科目では、まず児童生徒理解に関わる内容として「経験や主観のみに偏らないものの見方」「経験や主観のみに偏らない意思決定方法」「教育的支援の効果の確認方法」「先行事例（データ）の読み取り方」「国際数学・理科教育動向調査（TIMSS）公開データを用いた児童生徒理解」について取り上げる。これらの内容を通して、児童生徒に関わる様々な情報を偏りなく正確に理解する力と、それらを学級経営や学校経営に活かしていく力を育成する。次に人権教育分野については、同和教育から人権教育へと再構築されるなかで、厳しい環境に置かれた児童生徒が表出する問題行動や自己否定的な態度に対して、どのような支援や教育実践が行われてきたのかを理解することができるよう、講義や実践事例に基づく協議を行う。また、マイノリティに対する排除の現状から、差別や排除の根底にある意識を理解するとともに、学校現場におけるいじめ問題と関連させ、児童生徒の人権を尊重した学校環境づくりに向けた具体的な方法等を考察し、一人一人を大切にされた教育活動を展開できる力を身に付ける。</p> <p>第1回 (⑦ 古口高志、⑭ 大西雅人) 児童生徒理解と人権教育の概要</p> <p>第2回 (⑦ 古口高志) 児童生徒理解におけるピットフォール</p> <p>第3回 (⑦ 古口高志) 階層的分析法 (Analytic Hierarchy Process) による意思決定</p> <p>第4回 (⑦ 古口高志) 児童生徒への支援効果の検証</p> <p>第5回 (⑦ 古口高志) 児童生徒理解や教育的支援に関わる先行事例 (先行研究) の見方</p> <p>第6回 (⑦ 古口高志) 国際数学・理科教育動向調査 (TIMSS) 公開データの分析を通して児童生徒の特徴を理解する (1)</p> <p>第7回 (⑦ 古口高志) 国際数学・理科教育動向調査 (TIMSS) 公開データの分析を通して児童生徒の特徴を理解する (2)</p> <p>第8回 (⑦ 古口高志) 実際の事例を通じた児童生徒理解について</p> <p>第9回 (⑭ 大西雅人) ガイダンス：同和教育と人権教育の歴史と大切にされてきたこと</p> <p>第10回 (⑭ 大西雅人) 同和教育や人権教育における実践 (長欠・不就学問題を中心に)</p> <p>第11回 (⑭ 大西雅人) 同和教育や人権教育における実践 (集団づくりにおける実践)</p> <p>第12回 (⑭ 大西雅人) 同和教育や人権教育における実践 (自尊感情の育成に向けた実践)</p> <p>第13回 (⑭ 大西雅人) 現存する人権問題といじめ問題について</p> <p>第14回 (⑭ 大西雅人) 人権が尊重される環境づくりに向けたプランの共有と協議 (1)</p> <p>第15回 (⑭ 大西雅人) 人権が尊重される環境づくりに向けたプランの共有と協議 (2)</p>	<p>オムニバス 集中</p>
<p>学級経営の開発的実践</p>	<p>学級集団アセスメントと個へのアセスメントの方法としての観察法、調査法、面接法について理解する。アセスメントを基に、学級づくりのより効果的なストラテジーをどのように立てていくか、シミュレーションシートと蓄積データの活用法について学び、各自の学級経営プランの提案・討論はもちろん、あらゆるタイプの学級に対するストラテジーの立て方を提案できるようにすることで、学校現場での学級経営スーパーバイズができる力を身につけられるようワークも取り入れて行う。</p>	<p>※演習 講義 20時間 演習 10時間</p>

<p>授業研究開発と教育評価</p>	<p>本科目では、授業研究の基礎的手法を学び、それに基づいて各教科や児童生徒の発達段階に応じた授業研究開発を行う。また、多面的な教育評価方法を学び、授業に即した評価ができる力を付ける。最終的には、高知県における学力的課題を念頭に置いた上で、実際に授業研究を行い、それに適した教育評価を行うことにより、実践的な指導力を養成する。</p> <p>⑥ 野村幸代 全体の総括・調整を行う。</p> <p>24 玉瀬友美、42 野中陽一朗 授業研究や教育評価の基礎理論や考え方に関する概説において主な役割を果たす。</p>	<p>共同 ※演習</p> <p>講義 20時間 演習 10時間</p>
<p>理科学習指導法の理論と実践</p>	<p>学習指導要領を踏まえた理科の授業づくりの実践的方法について学ぶ。実際に教育経験のある現職教員受講生が資料を準備し、他の受講生とともにディスカッションやレポートによる意見交換を通して、理科の授業開発の理論構築や授業展開のための実践力の伸長を図る。授業開発の理論を構築するための重要な視点として、学力観、学習観の検討を中心にすえ、多様な学習方法との関連を明確にしていく。また、具体的に学習指導案の作成を通して、課題設定や板書、ノート指導等の在り方について受講生と考究し、それらの実践的能力を育成する。</p> <p>⑩ 楠瀬弘哲 全体の総括・調整を担当する。</p> <p>39 草場 実 中学校における理科教育で主な役割を務める。</p> <p>44 中城 満 小学校における理科教育で主な役割を務める。</p>	<p>共同 ※演習</p> <p>講義 22時間 演習 8時間</p>
<p>理科教材研究・開発の理論と実践</p>	<p>学習指導要領のねらいを深く理解した上で、理科授業を批判的に検討するための観点について授業分析などを通して修得する。子どもが自然の事物に興味関心を深め、目的意識をもって探究する能力の基礎と態度を身に付けるための教材研究・開発の在り方について、その要素を見だし、それらの実践的能力を育成する。</p> <p>⑩ 楠瀬弘哲 全体の総括と調整を担当する。</p> <p>16 赤松 直 地学分野の教材開発を担当する。</p> <p>20 蒲生啓司 化学分野の教材開発を担当する。</p> <p>27 原田哲夫 生物学分野の教材開発を担当する。</p> <p>30 伊谷 行 生物学分野の教材開発を担当する。</p>	<p>共同 ※演習</p> <p>講義 18時間 演習 12時間</p>
<p>理科教育マネジメントの理論と実践</p>	<p>新学習指導要領のねらいを深く理解し、高知県の学力向上における課題を明らかにした上で、自由研究や野外観察会、校内環境整備なども含めた理科教育活動全般を通して子どもが自然の事物・現象や科学的な事項に興味関心を深め、目的意識をもって探究する能力の基礎と態度を身に付けるための理科教育マネジメントの在り方について、危機管理等を含めてその要素を見だし、それらの実践的能力を育成する。</p> <p>⑩ 楠瀬弘哲 全体の総括・調整を行う。</p> <p>20 蒲生啓司 教育関係機関とのコーディネートに関して主な役割を務める。</p>	<p>共同 ※演習</p> <p>講義 18時間 演習 12時間</p>

授業方法演習	<p>本科目では、確かな学力を伸ばさせる高度な授業力を育成する。小学校・中学校・高等学校における探究的で協働的な授業に関する今日的課題を分析するとともに、その課題に対応した授業設計段階（授業デザイン）において必要な授業構成能力（授業目標、授業内容、学習指導法、教材の活用方法（デジタル教材を含む）、授業評価）を事例および先行研究をもとに育成する。さらに、授業分析および授業評価の手法を修得し、モデル授業を使った授業研究を通して、授業設計段階、授業実践過程における教師の意思決定の諸要素について理解を図る。講義及び演習形式で行い、受講生相互のディスカッションを積み重ねることで、授業における児童生徒の学習過程を捉える視点を獲得し、授業で生起する事実に基づき省察する力を養うとともに、理論と実践を統合しながら授業の課題を見だし、改善していく力を育成する。</p> <p>国語、算数・数学、社会、図画工作・美術、保健体育、技術、家庭、英語の各教科ごとに実施する。</p> <p>② 中野俊幸、㊸ 服部裕一郎 算数・数学教育を担当</p> <p>㊹ 吉田茂樹 国語教育を担当</p> <p>㊺ 藤田詠司 社会科教育を担当</p> <p>⑰ 金子宜正 図画工作・美術教育を担当</p> <p>㊴ 宮本隆信 保健体育教育を担当</p> <p>㊵ 道法浩孝 技術教育を担当</p> <p>⑱ 小島郷子 家庭科教育を担当</p> <p>㊶ 多良静也 英語教育を担当</p>	<p>※講義</p> <p>演習 16時間 講義 14時間</p>
教材開発演習	<p>本科目では、各教科教育の目的に照らした教科内容を体系的に理解した上で、教科の学問的専門性に裏付けられた幅広い観点から教材開発・教材研究を行うことを通して、児童生徒の学力の向上を図り、学習意欲を高めるための教材開発力を育成する。基礎的、学問的な知識を応用し、教材開発を試みると同時に、教材開発の試みを通して基礎的知識の深化を図るなど「教科内容構成授業」に位置付けられる科目である。</p> <p>小学校・中学校・高等学校においてこれまでどのような教材が開発され、どのような授業が行われてきたのかを分析し、教材開発や授業づくりに役立つ情報を得る。そして、教材開発・活用に関わる研究課題を自ら設定し、教材・教具の効果的な活用方法を検討し、これらを踏まえた指導計画や学習過程を構想できるようになるなど、教材開発に向けた企画力と知識・技術について実践的に学ぶ。</p> <p>国語、算数・数学、社会、音楽、図画工作・美術、保健体育、技術、家庭、英語の各教科ごとに実施し、教科教育学と教育内容学の教員が担当する授業である。</p> <p>② 中野俊幸、㊸ 服部裕一郎 算数・数学を担当</p> <p>23 玉木尚之、34 武久康高 国語を担当</p> <p>17 遠藤隆俊、㊺ 藤田詠司 社会科を担当</p> <p>33 高橋美樹 音楽を担当</p> <p>38 阿部鉄太郎 図画工作・美術を担当</p> <p>㊴ 宮本隆信 保健体育を担当</p> <p>㊵ 道法浩孝 技術を担当</p> <p>⑱ 小島郷子 家庭科を担当</p> <p>㊶ 多良静也 英語を担当</p>	<p>※講義</p> <p>演習 16時間 講義 14時間</p>

	授業デザイン	<p>魅力ある授業づくりのために、授業をどのようにデザインするかという課題について教科・領域の枠を越えて吟味・検討し、授業カンファレンスを通して主体的で確かな学力をつける授業をデザインする力の育成を目指す。総論として、現代的な教育課題に対応した授業デザインの在り方について学び、各論として各教科における授業デザインの理念と方法について学ぶ。2年次第1学期に学修した「授業方法演習」における基礎的な内容を踏まえて、本科目では応用的に授業デザインを学修する。</p> <p>第1回(19 小島郷子) オリエンテーション</p> <p>第2回(19 小島郷子) 現代的な教育課題に対応した授業デザインの在り方について理解する</p> <p>第3回(19 小島郷子) 授業を分析する</p> <p>第4回(25 吉田茂樹) 国語科の授業をデザインする</p> <p>第5回(22 藤田詠司) 社会科の授業をデザインする</p> <p>第6回(28 服部裕一郎) 算数・数学科の授業をデザインする</p> <p>第7回(26 金奎道) 音楽科の授業をデザインする</p> <p>第8回(17 金子宜正) 図画工作・美術科の授業をデザインする</p> <p>第9回(24 宮本隆信) 保健体育科の授業をデザインする</p> <p>第10回(21 道法浩孝) 技術科の授業をデザインする</p> <p>第11回(19 小島郷子) 家庭科の授業をデザインする</p> <p>第12回(23 多良静也) 英語科の授業をデザインする</p> <p>第13回(25 吉田茂樹・22 藤田詠司・28 服部裕一郎) 授業カンファレンス1</p> <p>第14回(26 金奎道・17 金子宜正・24 宮本隆信) 授業カンファレンス2</p> <p>第15回(21 道法浩孝・19 小島郷子・23 多良静也) 授業カンファレンス3</p>	<p>オムニバス・共同</p> <p>※講義</p> <p>演習 20時間 講義 10時間</p>
特別支援教育コース	特別支援教育の理論と推進・連携体制の構築	<p>「学校の特別支援教育体制づくりと特別支援教育制度」では学校体制づくりの専門性として、個別指導を行う教員に助言をする力としての「学級・HR経営力」、管理職に提案をする力としての「戦略マネジメント力」、学校内の特別支援教育コーディネーターと共に学校体制を整備する力としての「チームマネジメント力」を育成する。幼・小・中・高および特別支援学校を対象と想定しており、また、学部卒の院生を考慮し、事例を用いた講義、対話型の講義構成、随時の文献提示による共通の知識理解に基づいた講義を行うように、最新の事例研究の知見を受講生が調べてレポートして検討するという形態も取り入れつつ、講義を構成する。</p> <p>本授業では、特別支援教育の学校体制作りとして、助言力としてのスーパーバイズ、調整力としてのコーディネート、提案力としてのコンサルタントをキーワードとし、受講生が各々の関心に従って実践的知識の習得をめざす。</p>	<p>※演習</p> <p>講義 22時間 演習 8時間</p>
	特別支援教育認知能力評価の基礎と実際	<p>自閉スペクトラム症(ASD)や注意欠如多動症(ADHD)、限局性学習症(SLD)など発達障害のある子どもに対応するためには、彼らが示す認知特性を理解し特性に応じた指導を展開することが求められる。本授業では、幼稚園・小学校・中学校・高等学校でよく用いられる発達特性を理解するためのアセスメントを取り上げ、その方法・解釈・指導への活用法について、受講生が最新の研究論文を抄読しレポートすることを通してアセスメントの実践的活用について理解する。</p>	<p>※演習</p> <p>講義 16時間 演習 14時間</p>
	限局性学習症指導の理論と実践	<p>Specific Learning Disorder (SLD) (限局性学習症)は、「読字」、「書字」、「算数」の障害を主症状とする神経発達症であり、小学校・中学校・高等学校の通常の学級に在籍している者も多い。SLDの認知背景には、言語または非言語的情報処理過程の様々な障害が想定されていることから、適切な指導に当たっては、その前提としてそれら認知的背景を理解する必要がある。一方、幼稚園、小学校、中学校、高等学校など、その発達段階と教育環境に応じて求められる「読み・書き・計算」のスキルは異なり、またSLD児の学習のつまずきは多様である。したがって、SLDに対して適切な指導/支援を展開していくに当たっては、認知的背景理解とともに、発達段階や学習スキル、個人のつまずきなど種々の要因を包括的に捉えることが必要である。</p> <p>本授業では、SLDの指導に関し、認知特性・アセスメント・指導をキーワードとし、受講生が各々の関心に従って最新の研究論文を抄読・レポートし討論することを通して実践的知識を習得する。</p>	<p>※演習</p> <p>講義 16時間 演習 14時間</p>

<p>注意欠如多動症評価の基礎と実際</p>	<p>注意欠如多動症は、認知機能のアンバランス、自己コントロール（抑制能力、実行機能）の弱さ、不注意さによって、学習の遅れ、集団不適応、二次障害による問題行動などの状態になり、支援が必要になる。家庭や学校において注意欠如多動症の行動の背景について正しく評価し適切な対応をすることは、児童生徒の発達を促し二次障害を予防する。この授業では、前半で認知機能、脳機能の背景理解とアセスメント方法について講義し、後半で受講生がアセスメント法を用いた事例研究論文を発表し討議する。発表においては学校での支援会議等を想定して、アセスメントの解釈とそれに基づいた支援方法の適切さをわかりやすく説明することが求められる。</p>	<p>※演習 講義 18時間 演習 12時間</p>
<p>注意欠如多動症指導の理論と実際</p>	<p>注意欠如多動症は、認知機能のアンバランス、自己コントロール（抑制能力、実行機能）の弱さ、不注意さによって、学習の遅れ、集団不適応、二次障害による問題行動の状態になりやすい。注意欠如多動症の指導の原則は、行動背景の正しい理解および適切な指導の実践である。注意欠如多動症のある児童生徒の問題改善をより効果的にするためには、学校全体の共通理解も必要である。この授業では、前半で注意欠如多動症についての指導法の基礎を学び、後半で受講生が注意欠如多動症の指導法の事例研究論文を発表し討議する。発表においては、学校での支援会議等を想定して指導の具体的方法及び指導結果について参加者にわかりやすく説明することが求められる。</p>	<p>※演習 講義 16時間 演習 14時間</p>
<p>特別支援教育ライフスキル評価の基礎と実際</p>	<p>特別支援学校(知的障害)や特別支援学級(知的障害)(情緒障害/自閉症)に主に在籍する知的障害・発達障害の児童生徒は、共通して生活スキル・コミュニケーションスキル・感情コントロールスキル等のライフスキルの弱さが指摘されている。これらのライフスキルについて解明されつづけている最新の実態把握法に関する先行研究論文を自らが検索して学び、その実態把握法を用い具体的な事例について個別のライフスキルの弱さを解釈できることが求められる。本授業では、特別支援学校等で用いることが可能なアセスメントを取り上げ、その方法・解釈・指導への活用法について、受講生が最新の研究論文を抄読しレポートすることを通して、アセスメントの実践的活用について理解する。</p>	<p>集中</p>
<p>特別支援教育ライフスキル指導の理論と実践</p>	<p>特別支援学校(知的障害)や特別支援学級(知的障害)(情緒障害/自閉症)に主に在籍する知的障害・発達障害児童生徒は、ライフスキルに課題を有する者が多い。そこで、これまでの障害児童生徒に対するライフスキル指導法について、先行研究論文を自らが検索して学び、その指導法の実践事例を理解することによって、「特別支援教育ライフスキル評価の基礎と実際」の科目で学んだ評価法の結果から「個別の指導計画」を作成し、実践できる力を養う。本授業では、特別支援学校(知的障害)に在籍する児童生徒を中心に、幼稚園・小学校・中学校・高等学校に在籍する児童生徒に対しても用いることが可能な指導法を取り上げ、受講生が最新の研究論文を抄読しレポートすることを通して、指導法を理解する。</p>	<p>集中</p>
<p>自閉スペクトラム症評価の基礎と実際</p>	<p>特別支援学校(知的障害)や特別支援学級(知的障害)(情緒障害/自閉症)に主に在籍する自閉スペクトラム症(ASD)について解明されつづけている最新の障害像に基づく実態把握法に関する先行研究論文を自らが検索して学び、その実態把握法を用い具体的な事例について個別の障害像を解釈できることが求められる。本授業では、特別支援学校等で用いることが可能なアセスメントを取り上げ、その方法・解釈・指導への活用法について、受講生が最新の研究論文を抄読しレポートすることを通して、アセスメントの実践的活用について理解する。</p>	<p>※演習 講義 18時間 演習 12時間</p>
<p>自閉スペクトラム症指導の理論と実践</p>	<p>特別支援学校(知的障害)や特別支援学級(知的障害)(情緒障害/自閉症)に主に在籍する自閉スペクトラム症(ASD)は、スペクトラムと言われるように、個々の事例で障害像に多様性がある。ASDについて解明されつづけている最新の障害像や、その障害像に適した指導法について、先行研究論文を自らが検索して学び、その指導法の実践事例を理解することによって、「自閉スペクトラム症評価の基礎と実際」の科目で学んだ評価法の結果から「個別の指導計画」を作成し、実践できる力を養う。また、行動問題についてもABCアセスメントを実施し対応法(ストラテジーシート)を立案し実践できる力を養う。本授業では、特別支援学校(知的障害)に在籍するASDを中心に、幼稚園・小学校・中学校・高等学校に在籍するASDに対しても用いることが可能な指導法を取り上げ、受講生が最新の研究論文を抄読しレポートすることを通して、指導法を理解する。</p>	<p>※演習 講義 18時間 演習 12時間</p>

特別支援教育発達評価の基礎と実際	<p>特別支援学校学習指導要領において義務づけられている個別の指導計画や個別の教育支援計画の作成、ならびに特別支援学校で求められる組織的・体系的な学習評価には、児童生徒に対する発達評価が不可欠である。本講義では発達評価についての理論と方法についての理解を深める。</p> <p>さらに、発達評価に関する事例研究論文を検索し、講読する。その内容についてレポートすることを通して、発達評価がどのように教育現場に活かされているか、発達評価に関する課題や改善点は何か、等について討論する。</p>	<p>※演習</p> <p>講義 18時間 演習 12時間</p>
知的障害指導の理論と実践	<p>知的障害児は記憶能力、抽象能力等の発達に障害があるため、様々な学習特性を有する。特別支援学校（知的障害）では、そのような学習特性をふまえて、他障害種の特別支援学校とは別の教育課程が設定されている。本授業では、主として初期認知の学習研究から導き出された知見を紹介し、学習特性が生ずる背景について概説する。ついで、特別支援学校（知的障害）で行われている授業実践をもとに授業方法の検討を行う。</p> <p>特別支援学校（知的障害）の教育内容は学習指導要領に規定されているが、知的障害の様相が多様であるため、実際の指導内容や方法は各学校に任されている傾向が強い。そこで本授業では受講生に特別支援学校（知的障害）を中心とした最新の指導実践研究論文を検索、レポートしてもらい、討論することも重視する。それらのレポートや討論を通じて、全国の特別支援学校（知的障害）における教育課程の共通性、課題等を明らかにする。</p> <p>⑩ 宇川浩之 知的障害の教育現場の現状の観点から教育実践事例の検討において主たる役割を務める。</p> <p>⑮ 喜多尾哲 全体の統括・調整を行い、知的障害の学習特性の観点から教育課程の検討において主たる役割を務める。</p>	<p>共同 ※演習</p> <p>講義 16時間 演習 14時間</p>
肢体不自由評価の基礎と実際	<p>特別支援学校（肢体不自由）や通常学級に在籍する肢体不自由児の障害特性や発達段階の実態把握、及び教育効果の評価に適用される機能評価法を学ぶ。本授業では、特別支援学校等で用いることが可能な機能評価法を取り上げ、その方法・解釈・指導への活用法について、最新の機能評価事例を受講生が論文抄読によりレポートし演習形式で理解を深める。</p> <p>⑤ 松本秀彦 全体の総括・調整を行う。 48 鈴木保巳 肢体不自由の生理心理学的機能評価の観点から実態把握の検討において主たる役割を務める。</p>	<p>共同 集中</p>
肢体不自由指導の理論と実践	<p>特別支援学校（肢体不自由）や通常学級に在籍する肢体不自由児の障害像や発達段階に応じた教育的指導・支援法について、その科学的根拠とともに学ぶ。本授業では、当該時点における先進的な指導や指導上の課題・改善に向けた取り組み事例を受講生が論文検索によりレポートして演習形式で理解を深め、自らの実践力を養う。</p>	<p>集中</p>
病弱評価の基礎と実際	<p>特別支援学校（病弱）に在籍する病弱児について、大きく分類して身体疾患、精神疾患の枠組みの中でいくつかの疾患種を想定し、評価の在り方と評価の実際について学習する。特に、疾患に応じたテストバッテリーの組み方、実際のアセスメント結果のまとめ方等について体験的に学習する。なお、授業の進め方については、最新の研究論文を抄読し、発表する形式でおこなうものとする。</p>	<p>集中</p>
病弱指導の理論と実践	<p>前半は、特別支援教育における病弱児教育と、病弱に関連する疾患種を、病弱児教育の歴史に触れながら、これまでの病弱児指導の在り方と共に、現在の病弱児指導の方法について概観する。後半では、病弱児の指導場面での有効な対処法、指導法を、その科学的根拠とともに概説する。特に、指導については、エビデンスに基づく指導について取り上げ、指導時のターゲットと評価項目との繋がりについて説明する。なお、授業の進め方については、最新の研究論文を抄読し、発表する形式でおこなうものとする。</p>	<p>集中</p>

		<p>「特別支援教育演習」では、最新の事例研究の知見を受講生が調べてレポートして検討するという形態を主とした演習を行う。幼・小・中・高のおよび特別支援学校を対象と想定しており、各自の研究テーマ設定、文献検索、文献調査、文献講読方法の理解、文献概要集約、文献の考察など一連の文献検討のための力を育成する。また校内研修のテーマ設定や校内研修の推進、展開においてキーパーソンとなれるように、特別支援教育にかかわる研究領域において、関係者が共有すべき最新の研究動向を把握し、提案する力を育成する。発達障害や知的障害を中心としつつ、視覚障害・聴覚障害・肢体不自由・病弱等の障害についての研究方法論を習得することめざす。最新の事例研究の知見を受講生が調べてレポートして検討するという形態の演習である。講読文献は、受講者の研究テーマ関連領域の学位論文、雑誌掲載の原著論文・レビュー論文、紀要論文、学会発表要旨集録などから、受講者各人が収集して報告する。報告に基づき研究方法論について議論する。自分の研究テーマ以外の文献を講読することによって、それぞれの興味・関心を広げることも演習の目的とする。</p> <p>④ 是永かな子 全体の総括・調整を行う。</p> <p>⑤ 松本秀彦 発達障害領域において総括・調整を行う。</p> <p>⑯ 宇川浩之 知的障害領域において実務経験を踏まえて、総括・調整を行う。</p> <p>⑱ 喜多尾 哲 知的障害領域において研究的視点を提供することで主な役割を務める。</p> <p>⑳ 寺田 信一 発達障害領域において研究的視点を提供することで主な役割を務める。</p> <p>㉑ 鈴木 恵太 発達障害領域において研究的視点を提供することで主な役割を務める。</p>	<p>共同 ※講義</p> <p>演習 24時間 講義 6時間</p>
総合実践力科目	学校運営コース	<p>教育実践研究Ⅰ（学校運営）</p> <p>本科目は、「学校運営リーダー実習Ⅰ」における教育活動の取り組みを支える学校組織や評価について学び、理論と実践の融合を図りながら、実習における自らの課題を省察的に捉える科目である。授業では、各自の研究課題に応じてグループ討議を行ったり、多様な視点で教育活動を省察することを目的として全ての院生・専任教員・実習担当者等が一堂に会するゼミ（皿鉢ゼミ）を2回開催する。これらの活動を通して、自らの実践研究を省察し、「教育実践研究Ⅱ」に向けた展望と研究方針、計画等を明確にする。</p>	<p>共同 集中 ※講義</p> <p>演習 22時間 講義 8時間</p>
		<p>教育実践研究Ⅱ（学校運営）</p> <p>本科目は、「学校運営リーダー実習Ⅱ」における教育活動の取り組みを支える学校組織や評価について学び、理論と実践の融合を図りながら、実習における自らの課題を省察的に捉える科目である。授業では、各自の研究課題に応じてグループ討議を行ったり、多様な視点で教育活動を省察することを目的として全ての院生・専任教員・実習担当者等が一堂に会するゼミ（皿鉢ゼミ）を1回開催する。これらの活動を通して、自らの実践研究を省察し、「教育実践研究Ⅲ」に向けた展望と研究方針、計画等を明確にする。</p>	<p>共同 集中 ※講義</p> <p>演習 22時間 講義 8時間</p>
		<p>教育実践研究Ⅲ（学校運営）</p> <p>本科目は、「学校運営リーダー実習Ⅲ」における教育活動の取り組みを支える学校組織や評価について学び、理論と実践の融合を図りながら、実習における自らの課題を省察的に捉える科目である。授業では、各自の研究課題に応じてグループ討議を行ったり、多様な視点で教育活動を省察することを目的として全ての院生・専任教員・実習担当者等が一堂に会するゼミ（皿鉢ゼミ）を1回開催する。これらの活動を通して、自らの実践研究を省察し、「研究成果報告書」の作成に向けて総括を行う。</p>	<p>共同 集中 ※講義</p> <p>演習 22時間 講義 8時間</p>
		<p>総合実践研究（学校運営）</p> <p>学校運営コースにおいて、実習と共通科目や専門科目をつなぎ、理論と実践の融合を図りながら、学校運営に関する研究課題を立てて実践を構想する。また、この研究課題を解決し、研究の成果と課題を検証して総括を行い、確かな指導理論を構築するなどして研究成果報告書にまとめる。</p>	<p>共同 集中 ※講義</p> <p>演習 22時間 講義 8時間</p>

教育実践コース	教育実践研究Ⅰ（教育実践）	<p>本科目は、「教育実践高度化実習Ⅰ」における教育実践の取り組みを支える教授方法や評価について学び、理論と実践の融合を図りながら、実習における自らの課題を省察的に捉える科目である。授業では、各自の研究課題に応じてグループ討議を行ったり、多様な視点で教育実践を省察することを目的として全ての院生・専任教員・実習担当者等が一堂に会するゼミ（皿鉢ゼミ）を2回開催する。</p> <p>これらの活動を通して、自らの実践研究を省察し、「教育実践研究Ⅱ」に向けた展望と研究方針、計画等を明確にする。</p>	<p>共同 集中 ※講義</p> <p>演習 22時間 講義 8時間</p>
	教育実践研究Ⅱ（教育実践）	<p>本科目は、「教育実践高度化実習Ⅱ」における教育実践の取り組みを支える教授方法や評価について学び、理論と実践の融合を図りながら、実習における自らの課題を省察的に捉える科目である。授業では、各自の研究課題に応じてグループ討議を行ったり、多様な視点で教育実践を省察することを目的として全ての院生・専任教員・実習担当者等が一堂に会するゼミ（皿鉢ゼミ）を1回開催する。</p> <p>これらの活動を通して、自らの実践研究を省察し、「教育実践研究Ⅲ」に向けた展望と研究方針、計画等を明確にする。</p>	<p>共同 集中 ※講義</p> <p>演習 22時間 講義 8時間</p>
	教育実践研究Ⅲ（教育実践）	<p>本科目は、「教育実践高度化実習Ⅲ」における教育実践の取り組みを支える教授方法や評価について学び、理論と実践の融合を図りながら、実習における自らの課題を省察的に捉える科目である。授業では、各自の研究課題に応じてグループ討議を行ったり、多様な視点で教育実践を省察することを目的として全ての院生・専任教員・実習担当者等が一堂に会するゼミ（皿鉢ゼミ）を1回開催する。</p> <p>これらの活動を通して、自らの実践研究を省察し、「研究成果報告書」の作成に向けて総括を行う。</p>	<p>共同 集中 ※講義</p> <p>演習 22時間 講義 8時間</p>
	総合実践研究（教育実践）	<p>教育実践コースにおいて、実習と共通科目や専門科目とをつなぎ、理論と実践の融合を図りながら、教育実践に関する研究課題を立てて実践を構想する。また、この研究課題を解決し、研究の成果と課題を検証して総括を行い、確かな指導理論を構築するなどして研究成果報告書にまとめる。</p>	<p>共同 集中 ※講義</p> <p>演習 22時間 講義 8時間</p>
特別支援教育コース	教育実践研究Ⅰ（特別支援教育）	<p>本科目は、「特別支援教育実習Ⅰ」と共通科目や特別支援教育コースの専門科目とをつなぎ、理論と実践の融合を図りながら、実習における研究や解決策の構想、実践の省察、討議を行う科目である。各自の研究課題に応じてグループ討議を行ったり、また、中間・期末期には、専攻全体の院生や教員、その他、外部の教育関係者が一堂に会して多様な視点から実践を討議し合ったりする活動も行う。こうした活動を通して、「特別支援教育実習Ⅰ」のまとめと「特別支援教育実習Ⅱ」への見通しを立てる。</p> <p>④ 是永かな子、⑤ 松本秀彦、⑮ 本間希久恵、⑯ 宇川浩之 教育実践研究全体の総括・調整を行い、主指導に携わる。</p> <p>⑱ 喜多尾哲、⑳ 寺田信一、㉑ 鈴木恵太 専門とする障害種別に応じて、副指導に携わる。</p>	<p>共同 集中 ※講義</p> <p>演習 22時間 講義 8時間</p>
	教育実践研究Ⅱ（特別支援教育）	<p>本科目は、「特別支援教育実習Ⅱ」における教育実践の取り組みを支える教授方法や評価について学び、理論と実践の融合を図りながら、実習における自らの課題を省察的に捉える科目である。授業では、各自の研究課題に応じてグループ討議を行ったり、多様な視点で教育実践を省察することを目的として全ての院生・専任教員・実習担当者等が一同に会するゼミ（皿鉢ゼミ）を1回開催する。</p> <p>これらの活動を通して、自らの実践研究を省察し、「教育実践研究Ⅲ」に向けた展望と研究方針、計画等を明確にする。</p> <p>④ 是永かな子、⑤ 松本秀彦、⑮ 本間希久恵、⑯ 宇川浩之 教育実践研究全体の総括・調整を行い、主指導に携わる。</p> <p>⑱ 喜多尾哲、⑳ 寺田信一、㉑ 鈴木恵太 専門とする障害種別に応じて、副指導に携わる。</p>	<p>共同 集中 ※講義</p> <p>演習 22時間 講義 8時間</p>

		<p>教育実践研究Ⅲ（特別支援教育）</p> <p>本科目は、「特別支援教育実習Ⅲ」における教育実践の取り組みを支える教授方法や評価について学び、理論と実践の融合を図りながら、実習における自らの課題を省察的に捉える科目である。授業では、各自の研究課題に応じてグループ討議を行ったり、多様な視点で教育実践を省察することを目的として全ての院生・専任教員・実習担当者等が一堂に会するゼミ（血鉢ゼミ）を1回開催する。これらの活動を通して、自らの実践研究を省察し、「研究成果報告書」の作成に向けて総括を行う。</p> <p>④ 是永かな子、⑤ 松本秀彦、⑮ 本間希久恵、⑯ 宇川浩之 教育実践研究全体の総括・調整を行い、指導に携わる。 ⑰ 喜多尾哲、⑱ 寺田信一、㉑ 鈴木恵太 専門とする障害種別に応じて、副指導に携わる。</p>	<p>共同 集中 ※講義</p> <p>演習 22時間 講義 8時間</p>
		<p>実践総合研究（特別支援教育）</p> <p>特別支援教育コースにおいて、実習と共通科目や専門科目をつなぎ、理論と実践の融合を図りながら、特別支援教育に関する研究課題を立てて実践を構想する。また、この研究課題を解決し、研究成果と課題を検証して総括を行い、確かな指導理論を構築するなどして研究成果報告書にまとめる。</p> <p>④ 是永かな子、⑤ 松本秀彦、⑮ 本間希久恵、⑯ 宇川浩之 研究成果報告指導全体の総括・調整を行い、指導に携わる。 ⑰ 喜多尾哲、⑱ 寺田信一、㉑ 鈴木恵太 専門とする障害種別に応じて、副指導に携わる。</p>	<p>共同 集中 ※講義</p> <p>演習 24時間 講義 6時間</p>
実習科目	学校運営コース	<p>学校運営リーダー実習Ⅰ</p> <p>本科目では、学校運営コースの現職教員院生が、附属学校園、研究指定校、在籍校のいずれかのうち、自身の研究課題に基づいて決定した実習校において1年次通年集中科目として実習を行う。実習校においては、学校運営等に関する教育活動に参画する中で、学校課題や教育課題を分析し、その明確化を図り、実践研究の見通しを立てる。</p>	共同 集中
		<p>学校運営リーダー実習Ⅱ</p> <p>本科目では、学校運営コースの現職教員院生が、附属学校園、研究指定校、在籍校のいずれかのうち、自身の研究課題に基づいて決定した実習校において2年次前期集中科目として実習を行う。実習校においては、学校運営等に関する教育活動に参画する中で、「学校運営リーダー実習Ⅰ」で行った実践研究の分析をもとに更に探究的に課題解決を行う。</p>	共同 集中
		<p>学校運営リーダー実習Ⅲ</p> <p>本科目では、学校運営コースの現職教員院生が、附属学校園、研究指定校、在籍校のいずれかのうち、自身の研究課題に基づいて決定した実習校において2年次後期集中科目として実習を行う。実習校においては、学校運営等に関する教育活動に参画する中で、「学校運営リーダー実習Ⅰ」、「学校運営リーダー実習Ⅱ」で得られた知見等に基づいて、自ら企画・立案した解決策を探究的に実践し、その成果を検証して、より効果的な実践（指導理論）を構築していく。</p>	共同 集中
教育実践コース		<p>教育実践高度化実習Ⅰ（学部卒用）</p> <p>本科目では、教育実践コースの学部卒院生が、高知大学教育学部附属幼稚園、附属小学校、附属中学校のうち、自身の研究課題に基づいて決定した実習校において通年集中科目として実習を行う。実習校においては、学級に配属され、T2として教育活動を行ったり、担任業務の補助や特定の校務分掌の補佐を行ったりする中で、自身の論究すべき研究課題を整理し、課題に基づいて教科等の単元における授業実践を行う。</p>	共同 集中
		<p>教育実践高度化実習Ⅱ（学部卒用）</p> <p>本科目では、教育実践コースの学部卒院生が、自身の研究課題に基づいて決定した協力校において2年次前期集中科目として実習を行う。協力校においては、授業や学校行事、校内研究会や職員会議などにも参加し、学校の一員として児童生徒の指導に当たる中で、「教育実践高度化実習Ⅰ」で身に付けた単元構想力や授業実践力を協力校の実態に応じて発揮し、自身の研究を深化させる。</p>	共同 集中
		<p>教育実践高度化実習Ⅲ（学部卒用）</p> <p>本科目では、教育実践コースの学部卒院生が、自身の研究課題に基づいて決定した協力校において2年次後期集中科目として実習を行う。協力校においては、学級経営、授業実践等に関する教育活動に参画する中で、「教育実践高度化実習Ⅰ」、「教育実践高度化実習Ⅱ」で身に付けた実践力を発揮し、残された課題を発見してその克服に当たる。また、自身の教職就職後の研究テーマを明確化する。</p>	共同 集中

教育実践高度化実習Ⅰ（現職教員用）	本科目では、教育実践コースの現職教員院生が、附属学校園、研究指定校、在籍校のいずれかのうち、自身の研究課題に基づいて決定した実習校において1年次通年集中科目として実習を行う。実習校においては、学級経営、授業実践等に関する教育活動に参画する中で、学校課題や教育課題を分析し、その明確化を図り、実践研究の見通しを立てる。	共同 集中	
教育実践高度化実習Ⅱ（現職教員用）	本科目では、教育実践コースの現職教員院生が、附属学校園、研究指定校、在籍校のいずれかのうち、自身の研究課題に基づいて決定した実習校において2年次前期集中科目として実習を行う。実習校においては、学級経営、授業実践等に関する教育活動に参画する中で、「教育実践高度化実習Ⅰ」で行った実践研究の分析をもとに更に探究的に課題解決を行う。	共同 集中	
教育実践高度化実習Ⅲ（現職教員用）	本科目では、教育実践コースの現職教員院生が、附属学校園、研究指定校、在籍校のいずれかのうち、自身の研究課題に基づいて決定した実習校において2年次後期集中科目として実習を行う。実習校においては、学級経営、授業実践等に関する教育活動に参画する中で、「教育実践高度化実習Ⅰ」、「教育実践高度化実習Ⅱ」で得られた知見等に基づいて、自ら企画・立案した解決策を探究的に実践し、その成果を検証して、より効果的な実践（指導理論）を構築していく。	共同 集中	
特別支援教育コース	特別支援教育実習Ⅰ（学部卒用）	<p>高知大学教育学部附属校園のうち自身の特別支援教育に関する実践的研究課題に基づいて決定した実習校において、通年集中科目として実習を行う。前半は、自身の課題に従って、学校の組織運営または学級や児童生徒に関する観察・調査・各種検査等を実施する。「教育実践研究Ⅰ」で作成する支援案が完成した段階で、それを基に支援を実践し、その支援成果を評価する。</p> <p>④ 是永かな子、⑤ 松本秀彦、⑮ 本間希久恵、⑯ 宇川浩之 実習全体の総括・調整を行い、主として巡回指導に携わる。</p> <p>⑱ 喜多尾哲、⑳ 寺田信一、㉑ 鈴木恵太 専門とする障害種別に応じて、補助的に巡回指導する。</p>	共同 集中
特別支援教育実習Ⅱ（学部卒用）	<p>高知大学教育学部附属校園等において、自身の特別支援教育に関する研究課題に基づいて決定した実習校において2年次前期集中科目として実習を行う。「教育実践研究Ⅰ」の終了時に行った実践評価を基に支援を実践し、その支援成果を評価することで、自身の研究を深化させる。</p> <p>④ 是永かな子、⑤ 松本秀彦、⑮ 本間希久恵、⑯ 宇川浩之 実習全体の総括・調整を行い、主として巡回指導に携わる。</p> <p>⑱ 喜多尾哲、⑳ 寺田信一、㉑ 鈴木恵太 専門とする障害種別に応じて、補助的に巡回指導する。</p>	共同 集中	
特別支援教育実習Ⅲ（学部卒用）	<p>自身の特別支援教育に関する研究課題に基づいて決定した実習校において2年次後期集中科目として実習を行う。「特別支援教育実習Ⅰ・Ⅱ」及び「教育実践研究Ⅰ・Ⅱ」で身に付けた実践力を発揮し、残された課題を発見してその克服に当たる。また、自身の教職就職後の研究テーマを明確化する。</p> <p>④ 是永かな子、⑤ 松本秀彦、⑮ 本間希久恵、⑯ 宇川浩之 実習全体の総括・調整を行い、主として巡回指導に携わる。</p> <p>⑱ 喜多尾哲、⑳ 寺田信一、㉑ 鈴木恵太 専門とする障害種別に応じて、補助的に巡回指導する。</p>	共同 集中	
特別支援教育実習Ⅰ（現職教員用）	<p>実習協力校において、自身の特別支援教育に関する研究課題に基づいて決定した実習校において通年集中科目として実習を行う。前半は、実習協力校において自身の論究すべき特別支援教育に関する研究テーマに従って、学校の組織運営または学級や児童生徒に関する観察・調査・各種検査等を実施する。「教育実践研究Ⅰ」で作成する支援案(当該の研究課題により「学校支援計画」、「個別の教育支援計画」または「個別の指導計画」を指す)が完成し、後半はそれを基に支援を実践し、その支援成果を評価する。</p> <p>④ 是永かな子、⑤ 松本秀彦、⑮ 本間希久恵、⑯ 宇川浩之 実習全体の総括・調整を行い、主として巡回指導に携わる。</p> <p>⑱ 喜多尾哲、⑳ 寺田信一、㉑ 鈴木恵太 専門とする障害種別に応じて、補助的に巡回指導する。</p>	共同 集中	

<p>特別支援教育実習Ⅱ（現職教員用）</p>	<p>自身の特別支援教育に関する研究課題に基づいて決定した実習校において2年次前期集中科目として実習を行う。「教育実践研究Ⅰ」の終了時点でなされた支援評価を基に「教育実践研究Ⅱ」で作成された第2段階の支援案(当該の研究課題により「学校支援計画」、「個別の教育支援計画」または「個別の指導計画」を指す)を基に更に探究的に課題解決を行う。</p> <p>④ 是永かな子、⑤ 松本秀彦、⑮ 本間希久恵、⑯ 宇川浩之 実習全体の総括・調整を行い、主として巡回指導に携わる。</p> <p>⑰ 喜多尾哲、⑱ 寺田信一、㉑ 鈴木恵太 専門とする障害種別に応じて、補助的に巡回指導する。</p>	<p>共同 集中</p>
<p>特別支援教育実習Ⅲ（現職教員用）</p>	<p>自身の特別支援教育に関する研究課題に基づいて決定した実習校において2年次後期集中科目として実習を行う。「特別支援教育実習Ⅰ」、「特別支援教育実習Ⅱ」で得られた特別支援教育に関する知見等に基づいて、自ら企画・立案した特別支援教育上の課題の解決策を探究的に実践し、その成果を検証して、より効果的な実践（指導理論）を構築していく。</p> <p>④ 是永かな子、⑤ 松本秀彦、⑮ 本間希久恵、⑯ 宇川浩之 実習全体の総括・調整を行い、主として巡回指導に携わる。</p> <p>⑰ 喜多尾哲、⑱ 寺田信一、㉑ 鈴木恵太 専門とする障害種別に応じて、補助的に巡回指導する。</p>	<p>共同 集中</p>